

『ファウスト』脚注の試み (24)

DER TRAGÖDIE ZWEITER TEIL 悲劇第二部

ERSTER AKT 第一幕

ANMUTIGE GEGEND 優雅な土地 (Vers 4613-4727)

渡 辺 信 生

第一部とは異なり第二部に幕の区分があるのは、上演を考えてのことである。V. 6036までの冒頭の箇所は、1826年の春から1828年の1月にかけて書かれて、1828年の復活祭のときに、Ausgabe letzter Handの第12巻に収められて刊行された。残りは1832年の遺稿集で初めて世に出た。

Faustは優しいNaturgeistによって、辛い悔恨の思いから癒される。そして超人的な意欲と認識を新たに断念することによって、この地上の生活の中で、到達し得る最高の目的を追求しようと決心する。漠然としたかなり長い期間に亘る内面の発達が、この場を象徴的な出来事にまとめている。すでに„Wald und Höhle“に於て、Faustの祝福になったあの心を癒して落ち着かせる自然の力が、この度も罪悪感を——それが行動力を阻む限りは——彼から奪い去るのである。そしてこの心地よい眠りが彼に力強い意志への新たな能力を与える。舞台は高い氷河の山を仰ぎ見るアルプスの谷の上の牧草地である。「この日の出の描写は、ゲーテの3度目のスイス旅行(1797年)の、特にVierwaldstätter Seeの自然の印象の想い出から生じたものである」という、エッカーマンの推測の正しいことを、ゲーテは1827年5月6日に認めている。しかしこの風景はGotthardの周辺にしか相応しくない、とBurdachは言っている。

1826年3月12日にゲーテは、この場についてエッカーマンに次のように述べている。「第一部の結末の所で、Gretchenがどれほど恐怖の念に襲われたのか、それを振り返ってFaustが、どれほど心の底まで震撼せざるを得なかったのか、ということを考慮するなら、私は主人公を、実際そうしたように、完全に麻痺させて破滅したように見なして、そうした外見上の死から、新たな生を燃え立たせるほかにどうしようもなかったのだ。すべては同情であり、極めて深い慈悲である。

この場合裁判は行われぬ。Faust が例えば人間の裁判官によって行われるかも知れない裁判に値したか、値しなかったかどうかは、問題ではない。」(Witkowski).

第一幕は韻律に関しては新しい調子で始まる。Ariel が自分の詩節を交差韻で、強弱が規則的に交替する Trochäus の Vierheber の詩行で始めるとき (V. 4613-20), 第一部では韻律の多様性にも拘らず, 3 回しか登場しない或る種の調子がここで響き始める。Ariel の詩行と同じ詩行は第一部ではただ 3 回, つまり „Auerbachs Keller“ で 3 詩行, „Dom“ で 12 詩行, „Walpurgisnacht“ では V. 3871-3911 である。(Ciupke).

Anmutige Gegend — 人間を快い気分にする好ましい自然。(Henckmann). „Kerker の場“ とこの第一幕の間には, かなり長い時間が経過していて, その間 Faust が自然の中で求めていた治癒が今ここで彼に与えられたのである。(König). *anmutig* — 本来は人間に対してだけ用いられたが, ゲーテの場合人間だけでなく, 芸術作品や自然に対しても生命観を高め, 人間の精神や心の強さを増進させる特性を表す言葉として用いられた。(GWb). ゲーテの好んだ言葉。(Grimm).

Faust auf blumigen Rasen gebettet — Faust は自然の中に受け入れられる。人間と大地が調和した *anmutig* と *blumig* の結びつきは, „D u W“ にも出ている。vgl. 11. Buch : „die Anmut ihres Betragens schien mit der beblühten Erde ... zu wetteifern.“ *ermüdet, unruhig* — 第一部の結末の破局を直接に指している。*schlafsuchend* — 同時に予め Schlaf を示している。(Henckmann). Heilschlaf. (Arens). *Dämmerung* — Dämmerung des Abends. (Düntzer). 日光の消滅は, 同時に意識の消滅, 人生の終末のメタファーである。(Henckmann).

vor 4613. *Geisterkreis* — für Schar von Naturgeistern, Elfen. (GWb).

Ariel — hebr. Löwe Gottes. *it.* の aria (Luft) の影響の下で Luftgeist になった。これをゲーテは Shakespeare の „Sturm“ から知った。(Trend.) Elfenkönig. vgl. V. 4239. (Trunz). ここでは Elfenchor の指揮者。(GWb). *Äorlscharfen* — Windharfe. vgl. V. 28. (Schöne).

4613f. *Wenn der Blüten Frühlingsregen* — Wenn der Frühlingsregen der Blüten. *Frühlingsregen* — 善良な妖精たちは, 日中自分たちに住処を与えてくれる花や葉の季節になると, 特に活動的になる。花は妖精学に於ては, 春の雨になって上から軽やかに降ってくるものとして表現されている。季節は春ではない。真夏である。vgl. V. 4657. (Thomas). *Über alle* — alle は 2 行下の Erdgebornen. (Henckmann).

4615f. *Wenn der Felder grüner Segen* — Wenn grüner Segen der Felder.

- Allen Erdgebornen* — 3格。 *blicken* — glänzen, leuchten. (Fischer).
- 4617f. *Kleiner Elfen Geistergröße* — Die Geistergröße kleiner Elfen. *Geistergröße* — die den (Elfen-) Geistern eigene besondere Kraft. (GWb). geistesgrösze von geistern. (Grimm). 次行の *Eilet* の主語。
- Eilet, wo* — *Eilet* (dahin), wo. *sie* — 前行の *Geistergröße*. 大きい心を持った小さい妖精たち。意味深い複合語。妖精の寛大さは、人間の道徳的規範に対する高貴な冷淡さに存する。彼らは人間の品性など顧慮せずに、どんな不幸な人間にも親切に尽す。(Thomas).
4919. = Ob er heilig oder böse ist. *er* — 次行の *Unglücksman*. *heilig* はここでは *böse* とは反対の意味なので = gut, shuldlos. *heilig* はゲーテの場合さまざまな意味に用いられている。vgl. V. 427, 432, 566, 1035, 1180, 1202, 1222, 1317 usw. (Trunz). 純粋な *Naturgeist* である妖精たちは、宗教や道徳とは無関係に振舞う。(Gaier).
4620. jn. jammern. 或人⁴に同情心を起させる。 *sie* — 4格。 *Sg.* なら2行上の *sie* = *Geistergröße*. *Pl.* なら3行上の *Elfen*. (Heffner). *der Unglücksman* — Faust. 恐らく不運を被る者ともたらす者という二重の意。(Heffner).
- 4621–33. *Ariel* によって語られるこれらの詩行は、強弱が交互に交替する Vier-, Fünfheber の *Jambus* で、脚韻は自由。従って *Madrigalverse* と見なされる。(Ciupke).
4621. *Die ihr dies Haupt ...* — *Ihr, die ihr dieses Haupt im luftigen Kreise umschwebt.*
4622. *Erzeigt euch* — 命令法。 *sich erzeigen* — sich deutlich zeigen. (Fischer). *nach edler Elfen Weise* — nach der Weise edler Elfen : im Gegensatz zu ihren quälenden Geschwistern, den Alben, die die Alpträume bringen. (Henckmann).
4623. *Besänftig(e)t* — 命令法。 *des Herzens grimmen Strauß* — den grimmen Strauß des Herzens. *grimm* — erbittert, heftig. (GWb). *Strauß* — Kampf. (GWb).
4624. *Entfernt* — 命令法。 *des Vorwurfs glühend bittre Pfeile* — die glühend bitt(e)ren Pfeile des Vorwurfs. Faust の精神の崩壊に最も寄与した自己批判の矢。(Endres). Gretchen 悲劇を指している。(Reclam).
4625. *reinigt* — 命令法。 *Graus* — Grauen, Grausen. (Fischer). vgl. V. 3094, 3302. *der erlebte Graus* — Faust にも責任のある Gretchen の恐ろしい運命に関わる言葉。従ってカタルシスの意味に於ける Faust の心の浄化が考えられている。(Endres). ここは = Reinigt sein Inneres von erlebtem Graus.
4626. *Pause* — hier Zeitabschnitt. 時間の区切り。(Schröer). *Weile* —

zeitraum, zeitspanne. (Grimm). V. 4628–31に於て、この Pausen の特徴が Ariel によって示されている。そこからあとに続く Elfen の合唱の 4 詩節が、この特徴に応じて構成されている。ゲーテは最初の手書きの草稿で、この Pausen に次のような音楽用語をつけている：Serenade (Abendmusik), Notturmo (Nachtmusik), Matutino (Morgengesang), Reveille (Weckruf). (Trunz). Trend. は以下の 4 詩節を Abenddämmerung, Nacht, Morgendämmerung, Tagesanbruch としている。

このような新しい力を与えてくれる夜の経過は、Gretchen の死後経過した長い時間の象徴になっている。(Beutler). 古代ローマの軍隊の夜警は、それぞれ 3 時間ずつの 4 回に分けられていた。この区別を教会も引き継いだ。この四つの区分は V. 4628–33 に於て、人間を生き返らせる睡眠の段階として新たに解釈されている。(Gaier). 3 時間ずつ四つに分けられていたのは、夕方 6 時から朝の 6 時まで。(Erler).

Nun — Jetzt, Daher. *ohne Säumen* — ohne Zaudern, Zögern. (Fischer). *füllt ... aus* — 命令法. *aus|füllen*. *sie* — 前行の *die vier Pause*.

4628. *Erst* — 次行の *Dann* で受ける. *senkt ... nieder* — 命令法. *nieder|senken*. *Polster* — *gemeingerm.*, vielleicht verwandt mit „Balg“, früher *Maskul.* jetzt *Neutr.* = festgestopftes Ruhekkissen. 枕。(Fischer).

4629. *badet* — 命令法. *ihn* — Faust. *Lethe* — ギリシャ神話では冥界の河。死者の魂は地上の生活の記憶を忘れるために、その河の水を飲む。Dante Alighieri の „Göttliche Komödie“ (Inferno, XIV. Gesang) では、浄化の河と見なされている。ゲーテは Zelter 宛の書簡で書いている (am 15. Februar 1830): „Man bedenke, daß mit jedem Atemzug ein ätherischer Lethestrom unser ganzes Wesen durchdringt, so daß wir uns der Freuden nur mäßig, der Leiden kaum erinnern. Diese hohe Gottesgabe habe ich von jeher zu schätzen, zu nützen und zu steigern gewußt.“ (Erler).

ここで問題になっているのは、V. 6721 に於けるような単なる記憶の消失ではなくて、Gretchen による精神的圧迫を、心の底から取り除くことなのである。(Schmidt). *Tau* — ここでは水浴びさせられるので *Wasser* の意。vgl. Der Fischer, V. 24 ; HA I, S. 153 : „Lockt dich dein eigen Angesicht / Nicht her in ew'gen Tau?“ (Gaier).

4630. *gelenk* — (leicht) beweglich, biegsam. しなやかな。(Fischer). *die krampferstarrten Glieder* — die von Mattigkeit gelähmten Glieder. (König).

4631. *er* — Faust. *entgegenruhen* — sich im Schlaf für einen Neubeginn

- ausruhen. (GWb). entgegen ruht の版もある。英訳では : „If sleep gives him the strength to face the coming day.“ (Atkins).
4632. *Vollbringt* — 命令法。 *der Elfen schönste Pflicht* — die schönste Pflicht der Elfen.
4633. *Gebt ... zurück* — 命令法。 zurück|geben. *ihn* — Faust. *dem heiligen Licht* — in the morning. (Thomas). 妖精たちは the light of day を神聖なものとなしている。(Heffner)。人間を聖なる光の許に戻すということは、ゲーテの Faust の主要な内容である。(Endres)。
- 4633+. *Einzeln ... gesammelt* — 以下の歌は solo, duet, chorus で歌う。或いはアドリブで交互に、または一緒に歌う。(Thomas)。
- 4634–65. この Elfen-Chor も Ariel の歌と同じく、強弱が規則的に交替する Trochäus の Vierheber で、脚韻は交差韻。(Ciupke)。
- 4634f. *lau die Lüfte* — die lauen Lüfte. (Schröer). *sich füllen* — durchdrungen werden, become permeated. (Thomas). *grünumschränkt* — von Grün umgeben. (Fischer). *Plan* — freier ebener Platz im Walde. (Fischer)。ここでは樹木に囲まれたアルプスの草原。(Thomas)。
- 4636f. = Dann senkt die Dämmerung süße Düfte, Nebelhülle heran. *heran|senken* — sinkend heranbringen, od. herbeiführen. (Fischer)。
- 4634–37. ここは文字通りには理解し難い。„Chinesisch-Deutsche Jahres- und Tageszeiten“ にある „Dämmerung senkte sich von oben“ und „Nebel schleichen in die Höh“ が正しい表現。それが „die Dämmerung senkt den Nebel heran“ になっている。(Arens)。
4638. *Lispelt* — 次行の Wiegt, 3 行下の Schließt と共に、前行の Senkt 同様に die Dämmerung の述語。(Thomas)。しかし Trend. は命令法とする。英訳では Bruford, Greenberg, Luke が前者で、Atkins と MacNeice が後者。菊池栄一は Elfen 達は自然の生命を蘇らせる力を讃美するのであって、自然に命令してゐるわけではないので、命令形は不適當としてゐる。
4639. 英訳では Cradle this heart in childhood's peace. (Atkins). Rocks the heart to childlike rest. (Bruford)。
- 4640f. *dieses Müden* — müde の名詞的用法。dieser Müde の 2 格。 = Faust. *des Tages Pforte* — der nach Homerischer Vorst. bei Nacht mit einer Wolke geschlossene Zugang zum Licht, der morgens von den Horen geöffnet wird. (Fischer). vgl. V. 4666. den Tag の比喩。(Loeper)。Pythagoras は眼を Sonnentore と言っている。(Düntzer)。この 2 行の英訳は And upon his tired eyes / Shut the portals of day's light. (Atkins). On these tired, aching eyes / Softly shuts the door of day. (Greenberg)。

この詩節では ü 音が8回, l音が10回用いられている。これはこのような音声の繰り返しを避ける, 完成されたゲーテらしい抒情詩ではなくて, 抜け目のない効果を狙った打算であり, 自然な素直な声ではない。(Arens).

4642. *hereinsinken* — poetisch von der Nacht, iSv anbrechen, heraufziehen. (GWb). 現在完了。

4643. ここはポピュラーな言葉や詩歌によって, ゲーテが若いときからなじんでいた古いドイツ語の語順。Es schließt sich として説明すべきではない。vgl. V. 6141f., 6624, 8311. (Schmidt). ここは = Es schließt sich in heiliger Stille Stern an Stern. (König). 普通の語順は : Heilig schließt sich ... (Trend.), sich an et.⁴ schließen. *heilig* — von höheren Gewalten herrührend. (Fischer). 副詞。Zierwort にすぎない。(Arens). ここは = Sterne schließen sich einer an den andern. 星が互いに連なっている。(Schröer). One star joins another. (Heffner).

4644-47. 二重の交差配列 (Chiasmus). Große Lichter — glänzen fern / Kleine Funken — glitzern nah. (Arens).

4645. *Glitzern* — Verstärkungsform zu glitzen = wiederholte zitternde Lichtblitze von sich geben, schimmernden Glanz ausstrahlen. (Fischer). *glänzen* — leuchten, strahlen. (Fischer).

4647. *klarer Nacht* — 2格名詞の副詞的用法。= in klarer Nacht. (Erler). 3格とする見解もある。(bei) klarer Nacht. (Gaier) .

4648f. *tiefsten Ruhens* — of deepest resting. 動名詞の方が tiefster Ruhe より一層表現力が豊かである。(Thomas). das Glück tiefsten Ruhens. *besiegeln* — feierlich bekräftigen. (Grimm). garantieren. (GWb). *des Mondes volle Pracht* — die volle Pracht des Mondes. 満月は星空の光景を保証する支配者である。(Trend.).

4650. *die Stunden* — 星が輝いていた時間。しかし Faust の過去の生活の時間とする見解もある。現在完了。

4651. *Schmerz und Glück* — 消えたのは体験の記憶ではなくて, 体験したあとに残る感情である。ここは Lethe の河の水浴 (V. 4629) の効果。(Thomas). 現在完了。

4652. *Fühl ... vor!* — du に対する命令法。= ahne es! (König). *vor|fühlen* — (ahnend) im voraus fühlen. (Fischer). es — 前行のこと。Du = Faust. *gesunden* — intr. gesund werden, genesen. (Grimm). iSv zu (neuen) Kräften kommen ; überwiegend mit Beziehung auf Wiederherstellung innerer Balance, körperl-seel Harmonie. (GWb).

4653. *Traue* — du に対する命令法。= Vertraue auf den anbrechenden

- hellen Tag. (König).
- 4654f. 谷が緑になり、丘がふくらむ。 *sich buschen* — sich bebuschen, d.i. sich mit Büschen bedecken. (Fischer). sich mit Büschen, Laubwald füllen ; poetisch von Hügeln. (GWb). 丘は茂みに覆われて、憩う木蔭になる。
- 4656f. *schwank* — leicht beweglich, schwingen. (Fischer). lang, dünn. biegsam u. daher hin- und her schwenkend. (Heyse). *Wogt ... zu* — zu|wogen = sich wogend (einem Orte od. einer Person) hinzubewegen. (Heyse). *der Ernte* — 3格。 *Saat* — das aus dem samen hervorgehende gewächs. insbesondere vom getreide. (Grimm). もともと Saat は „die Handlung des Säens“ の意。そこから (*lat. satio* のように) „das Gesäte“ (播かれたもの), „das aus dem Gesäten Erwachsene“ (穀物) の意味に発展した。(Trübner). ここは = sways toward the harvest-time. (Thomas). この2行の英訳は: „And in pliant, argent waves / New grain billows harvestward.“ (Atkins). „And the corn in silver ripples / Towards a golden harvest flows.“ (MacNeice).
4658. = (Um) Wunsch⁴ um Wünsche zu erlangen. *Wunsch um Wünsche* — Einen Wunsch nach dem andern. (Düntzer). *Pl. Wünsche* は Steigerungを表す。vgl. V. 4718 von Sturz zu Sturzen. V. 4720 Schaum an Schäume, 5527 Kreis um Kreise, 7497 Lied um Lieder. (Reclam).
4659. *Schaue* — 命令法。 *Glanze* — das Leuchten der Morgenröte. (Endres).
- 4660f. *umfassen* — *P.P.* (お前は) 眠りによって軽く抱かれているにすぎないので、殻のようにその眠りを投げ捨てよ! (Schröer). *wirf ... fort!* — 命令法。 *fort|werfen. sie* — Schale. 目覚めた Faust は卵からかえって、殻から出てくる鳥に喩えられている。(Heffner).
4662. *Säume ... nicht* — 命令法。ためらうな。 *sich erdreisten* — sich erkühnen, etw (Heroisches, Ungewöhnliches) beherzt, entschlossen wagen. (GWb).
4663. *Wenn* — indem, während, wenn auch などの見解がある。 *zaudernd schweifen* — sich unschlüssig bald nach dieser, bald nach jener Seite wenden. (Fsicher).
4664. *der Edle* — 形容詞の名詞的用法。主語。
4665. *Der* — 関係代名詞。先行詞は *der Edle. ergreifen* — in sich aufnehmen. (Fischer). ここは = the noble man who understands everything and quickly makes it his own. (Heffner).
- 4665+ ここは vgl. Anm. zu V. 243-46. (Gaier).
4666. *Horchet!*, *horcht* — 命令法。 *horcht* のあとに感嘆符のついた版もある。 *horchen* — mit dativ der person od. der sache, gern in gehobener

- od. poetischer sprache. (Grimm). *Horen* — ギリシャ神話の四季の女神。Homer の „Ilias“ (4. Gesang, V. 749, 8. Gesang, V. 393) では、Zeus の侍女で天国の扉を守る。太陽神 Phoibos Apollon が海朝炎の4頭立ての馬車に乗って、天空を駆けめぐらるために出かけるとき、彼女たちはすさまじい音を立てながら、その扉を明けたり閉めたりする。(Erler). ここから V. 4678までは Ariel によって語られる Vierheber の Trochäus. (Ciupke).
- 4667f. *Tönend* — 日の出は音響と結びついていると一般に信じられていた (Sphärenmusik). Haydn (1732–1809) は „Schöpfung“ (1798) の中で、また Guido Reni (1575–1642) は Aurora (1612–14) の中で、回転する車輪と Horen によって日の出を表現した。(Loeper). *Geistesohren* — Elfenohren. (Loeper). 妖精たちは新たな日の誕生を Getöse (V. 4671) として体験する。(Henckmann). wird ... geboren.
4669. *Felsentor* — the gate of heaven. 雲で出来ているという考え方がより一般的。(Heffner). 岩の門ががらがらぎいぎい音をたてる。
4670. *Phöbus* — 4頭立ての馬車に乗っている太陽神。(Schröer). Apollo の別名。(Huber). *prasseln* — krachen, rasseln. (Fischer).
4672. *Es, es* — 非人称主語。 *trommeten* — trompeten の古形。(Fischer). = drommeten. (Loeper). *es posaunet* — there's peal of trombones. (Thomas).
4673. *blinzen* — seit dem *mhd.* = mit halbgedruckten Augen (und daher undeutlich) sehen. vgl. V. 9581. jetzt vorwiegend blinzeln. (Fischer). *Auge, Ohr* — 第二部に於ける冠詞の大量の省略は、ゲーテの老年期の特徴である。(Schmidt). 冠詞の省略は擬人化。(Fischer).
4674. *Unerhörtes* — physikalisch nicht Hörbares. (Endres). was die Hörfähigkeit der Elfen übersteigt. (Gaier). *Unerhörtes hört sich nicht* — Die Elfen sollen das ihre Fassungskraft übersteigende Geräusch nicht hören. 聞こえない音は聞いてはならないのだ。(Trunz). 英訳は Things unheard you must not hear. (Atkins).
- 4675-78. *Schlüpfet* — 命令法 (妖精たちに対する)。 *schlüpfen* — schnell od. verstohlen gleiten. (Fischer). 妖精たちは日中は花冠の中に住んでいる。日の光には耐えられない彼らは、大音響で耳が聞こえなくなるかも知れないので、Ariel は彼らに隠れるように忠告する。(Schröer). 夜が明けてくると霊たちは隠れる。 vgl. V. 4395. (Witkowski).
4676. *tiefer, tiefer* — farther, farther. Schlüpft にかかる。(Thomas). *still* — 妖精たちには太陽は見えないし、大音響も聞こえない。(Düntzer). (um) still zu wohnen.

4677. *In die Felsen, unters Laub* — Schlüpfet にかかる。

4678. *Trifft es euch* — Wenn es euch trifft. *es* — V. 4671の Getöse.

4679ff. Faust は目を覚ます。この場の舞台は、言語上は素晴らしい Terzine (ゲーテが普段殆ど用いたことのなかった詩節の形式) から生まれているように、スイスの山岳地帯である。ゲーテ自身エッカーマンとの対話の中で (den 6. Mai 1827), エッカーマンがこの場を Vierwaldstätter See の自然の印象の思い出と見なしたとき、次のように述べている: „Ich will es nicht leugnen, daß diese Anschauungen dort herrühren; ja ich hätte ohne die frischen Eindrücke jener wundervollen Nacht den Inhalt der erwähnten Terzinen gar nicht denken können. Das ist aber auch alles, was ich aus dem Golde meiner Tell-Lokalitäten mir gemünzt habe. Das übrige ließ ich Schiller(n), der denn auch davon, wie wir wissen, den schönsten Gebrauch gemacht.“ (Nämlich in seinem „Tell“. Schiller war selbst nie in der Schweiz). (Endres).

Faust の Terzinenmonolog の偉大な、豊かな自然の象徴は、1797年のスイス旅行の印象に遡る。(Schöne). *Terzine* — イタリア由来の韻律。理論的には無限に連なる韻律の形式。脚韻は a b a b c b c d c ... y z y (z). 最後の詩行の末尾には一般に交差韻が置かれる。大抵5詩脚の Jambus である。ゲーテはこの Terzine を、Dante Alighieri (1265–1321) の „Divina Commedia“ (Göttliche Komödie) から借用した。ドイツでは1824年から26年にかけて、Streckfußによるこの作品の翻訳が出版された。この翻訳を翻訳者自身から贈呈されたゲーテは、徹底的にこれを研究した。(vgl. Goethes Tagebuch vom 2. Sept. 1826 sowie seinen Brief an Zelter vom 6. bis 9. Sept. 1826). (Ciupke).

Dante の Terzine とは違ってゲーテの Terzine は、長さの異なる四つの意味の詩節に分けられている。それらの詩節は鎖のようにつながっている脚韻の型式を越えて互いに結合している。更にそれらの詩行はすべて女性韻で、一つの詩行から次の詩行への滑らかな(強弱の交代する)移行が避けられている。即ち、各詩行は Senkung で始まり且つ終る。このことは各詩行の終りで短かい休止を語り手に強いる。この効果は更に独白の殆んどすべての詩行末が、Syntax 上の区切りを表しているということによっても強められている。Enjambement¹ を示しているのは以下の詩行だけである: V. 4690f., 4695f., 4699f. 4704f., 4707f. (Ciupke).

¹Enjambement: = Zeilensprung. アンジャンプマン。Syntax 上の統一の継続と同時に、句末を越えて次の句にまで意味が継続するもの。(Ciupke).

4679. *Des Lebens Pulse* — die Pulse des Lebens. *Leben* — Lebensweg ではなくて、„frisch lebendig“ に脈打つ Lebensenergie の意。(Gaier). 心身共

に癒えた Faust の生命の脈拍。(菊池)

4680. *Ätherische Dämmerung* — Dämmerung des Äthers, Morgendämmerung. (Schröer). 4 格. *milde* — freundlich, ruhig, liebevoll ; ähnlich V. 30, 1455, 5883, 6506, 8902, 9708. (Trunz). ここは ... milde (um) zu begrüßen, d.h. daß sie (die Pulse) imstande sind zu begrüßen. (Schröer). Pulse にかかる。この 2 行の英訳は : „Life’s pulses beat with fresh vitality / And gently greet the sky’s first glimmering.“ (Atkins).

強弱が規則的に交替する „Faust“ の詩行で、この交替を中断する 3 音節のタクトが、この行に於けるようにしばしば登場する。この 2 行の韻律は :

Des Lebēns Pulsē schlägēn frisch lebēndig,
Ätherischē Dämmerung milde zū begrüßen.

([˘]) は synkopieren (弱音節の省略) である。同様に省略される詩行は、V. 4687 (tausendstimmigen), 4697, 4707 (共に ewigen), 4727 (farbigen), 7306, 8304, 8481 (共に heiligen), 8484 (mildgewogenen), 10861 (mächtigen), 12087 (heiligen).

このような弱音節の省略が適切な場合は、印刷された活字体では確かに極く稀である。しかしゲーテは V. 5972 (heil’gen), V. 7378 (heil’ge) に於けるように、問題の単語中の母音が省略されて話されるのを望んだ。強弱が規則的に交替する詩行を音読する際には、弱音部を省略するかしないかは、自ずから生じる問題で、読者が簡単に自分で決めたらよいことである。(Ciupke).

4681. *auch diese Nacht* — nach der Katastrophe des ersten Teils : die Nacht des heilenden Todesschlafs. (Henckmann).

4682. *neu erquickt* — neu beleben. (Fischer).

4683. beginnen, et. zu tun.

4684. *regst und rührst* — erregst und rührst auf. ゲーテはごく若い頃と、晩年になって再び、合成語の代りに単一語を好んで用いた。(Witkowski). 接頭辞の断念による強調に注意されたい。(May). *Beschließen* — sich³ et. vornehmen, einen persönl Entschluß fassen. (GWb). 次行の zu 不定詞句を受ける。

4685. *Zum höchsten Dasein* — Zum Gipfel des menschlichen Daseins. (GWb). *streben* — Faust の独白に於てライトモチーフをなす語。V. 697, 767, 1075, 1676, 1742, 7291. Faust に関してより高い立場から語られるのは、V. 317, 11936. (Trunz). ここで語っているのは Faust の良い方の自我である。粗野な性的衝動が克服され、内心の浄化の責任が消滅したのである。しかしだからと言って Faust が、利口すぎる解釈者たちが思い違いをしたように、別の Faust になったのではない。ゲーテ自身彼らに次のように語っている :

- „Seid ihr verrückt? Was fällt euch ein, den alten Faustus zu verneinen?“
(Endres). 行末の Punkt と Gedankenstrich は、この最初の 7 行を目立つもの
のにしている。(Arens).
4686. *erschlossen liegen, sein* — für Anschauen, Empfinden od Erkennen
offen, bereit. (GWb). *erschlossen* — ゲーテらしい用語。世界は感覚に対
して開かれている。形のようなもので認識されるという意味。(Henckmann).
英訳では Already the world lies opened up in the dawn. (MacNeice).
4687. *Leben* — das lebende wesen. (Grimm).
4688. *aus, ein* — 共に *adv.* = heraus, hinein. (GWb). *ergossen* — <
ergießen = ausgießen, ausströmen lassen. (Fischer). 谷を出たり谷に入ったり、
霧の帯が靡いてゐる。(森)。
4689. *Himmelsklarheit* — Tageshelle. (König).
- 4690f. ... (sind), ... , entsprossen. 現在完了。(Heffner). *et.*³ entsprossen.
düftig — dunstig, neblig. (Fischer). *Abgrund, wo* — 先行詞と関係副詞。
versenkt — 静かに。*sie* — Zweig und Ästhe. 英訳では: „And from
the misty chasm where they slept / Fresh-quickened boughs and branches
have burst forth.“ (Atkins). „And bough and branch, quickened anew,
come sprouting / From the scented cavern where they drowned in sleep.“
(MacNeice).
4692. *Farb' an Farbe* — color on color. 色が次々に。(Atkins). *an* — mit
Dat. = auf, nach, neben. (Fischer). *sich los|klären von* — kurz = sich
klären und ablösen. 交代しながらはつきり見えてくる。(Fischer). stand
forth clearly. はつきりと現れる。目立つ。(Heffner). 谷を下った土地は暗い
と考えられる。曙の光に次第に照らされて光と影が出会うと、さまざまな色
が生まれる — それらの色は (Newton の光分裂説とは反対の) 色彩論者
ゲーテのイメージに従えば、“光の行為”として惹き起しているのである。
„Wiederfinden“ という詩の中でゲーテは、神が創造した „Morgenröte“ につ
いて次のように書いている: „Sie entwickelte dem Trüben / Ein erklingend
Farbenspiel“ (Schöne).
4693. *Wo* — 関係副詞。先行詞は Grunde. *Zitterperle* — 短く、具体的に
という要求から生まれた、ゲーテの大胆な合成語。(Trend.). しめった朝もや
や露から出来た水滴。(Endres). *erzitternde Tauperle*. (Fischer). ここは =
花や葉が震える真珠の雫をたらず。花や葉から震える真珠の雫がしたり落ち
る。vgl. Die Stirn trieft von Schweiß. (Trübner).
4694. *die Runde* — Rundung. (Fischer). *rundsein, kreis*. (Grimm). 円, 円
形。

- 4695f. *Hinaufgeschaut!* — 過去分詞による命令法。Faust は自分自身に言う。(Heffner). *Der Berge Gipfelriesen* — Die Gipfelriesen der Berge. die Berggipfel in unermeßlicher Höhe. (Schröer). *die feierlichste Stunde* — 日の出の時。高いアルプス連山の頂上は、早くも日光に照らされている。その光はゆっくりと、次第に低く山々の方に広がって行き、遂には Faust が横たわっているあたりも太陽に照らされる。(König).
4697. *Sie* — 2行上の Gipfelriesen. *des ewigen Lichts genießen* — 韻文でも散文でもゲーテに見られる多数の場合、少なくともその半分はまだ2格の補足語を取る。vgl. V. 616. 4格をとる場合は V. 620, 11585f. (Fischer). *dürfen* — können.
4698. *Das* — 関係代名詞。先行詞は des ewigen Lichts. *wendet* — zuwendet.
- 4699f. *zu der Alpe grüngesenkten Wiesen* — zu den grünen Wiesen der Alpe, die tiefer als die Gipfel liegen. (König). *Alpe* — Bergwiese, Alm. (GWb). *grüngesenkt* — grün はここでは決して副詞と理解してはならない。この表現は „grüne gesenkte (= etwas tiefer liegende) Wiesen“ から簡単に組み合わせられたものである。(Endres). つまり少し低い所にある牧草地。von Wiesen iSv grün u abfallend. (GWb). *neuer Glanz und Deutlichkeit* — 主語。定動詞 Wird は Sg. *spenden* — austeilen. (Fischer). 受動。
4701. *stufenweise* — von stufe zu stufe. allmählich. (Grimm). *gelingen* — < gelingen = vorwärts gehen iSv Fortschritte machen. hier vom Licht iSv ein örtl Ziel erreichen, hindurchdringen. (GWb). *es* — 前行のこと。現在完了。
- 4702ff. *Sie* — die Sonne. (Endres). *hervor|treten*. *Sie tritt hervor* — 立ち昇る太陽の光が上から下へと次第に広がって、下に横たわっている Faust にも見えてきたということ。(Schröer). *sich weg|kehren* = turn away. (Heffner). 近づく太陽の轟音が妖精たちの耳には耐えられなかったように、太陽の光は人間の目には耐えられない。この箇所は第一部の地霊が炎の中で姿を現す場面 (V. 485) との関連で、常に解説されている。そしてそれは根本的な変化の証拠と見なされた。「永遠な光」を直接認識しようという不遜な欲求 (V. 1086f.) を、今や Faust は断念する。つまり Faust は成熟した人間として、人間には近より難しいものの反映 (Abglanz) で満足するというのである。„So bleibt denn die Sonne mir im Rücken!“ (V. 4715). (Schöne).
4704. この詩節では前節最後の2行の経験の一般化がなされている。即ち, *ich* (V. 4703) から *wir* (V. 4708f. -13f.) への典型的な変化によって。(Arens). *es* — 形式上の主語。 *also* — folglich, daher. (GWb). So を強める。

(Düntzer). ein sehnd(es) Hoffen. *wenn* — 2行下までかかる。人間の憧れの実現と、人間の目には耐えられない日の光との見事な比較が、以下に詳述されている。(Endres). ゲーテは Carus und d'Alton 宛ての書簡 (am 7. Januar 1826) で同じような比喩を用いている: „Wenn ich das neuste Vorschreiten der Naturwissenschaften betrachte, so komm ich mir vor wie ein Wanderer, der in der Morgendämmerung gegen Osten ging, das heranwachsende Licht mit Freuden anschaute und die Erscheinung des großen Feuerballens mit Sehnsucht erwartete, aber doch bei dem Hervortreten desselben die Augen wegwenden mußte, welche den gewünschten gehofften Glanz nicht ertragen konnten.“ (Alt).

4705. *Wunsch* — V. 4658の Wunsch と同じ意味。mhd. では Wunsch は „Inbegriff des Schönsten und Vollkommensten“ を意味した。(Arens). vgl. „W M L“ 4, 19 : „Der Mensch scheint mit nichts vertrauter zu sein, als mit seinen Hoffnungen und Wünschen ... und doch wenn sie ihm nun begegnen ... erkennt er sie nicht und weicht vor ihnen zurück.“ (Witkowski). sich ... zugerungen (hat). sich einem Wunsche zu|ringen = eifrig nach dessen Erfüllung streben. (Fischer). sich et³ ringend zustreben. (SWb). *traulich* — voll Vertrauen, mit Zuversicht ; ähnlich V. 12023. (Trunz).

4706. = (Und) Erfüllungspforten⁴ flügeloffen findet. *flügeloffen* — die Flügel der Pforte, die Erfüllung verheißt, sind offen. (Reclam). この3行の比喩の意味は: Wenn eine sehnde Hoffnung sich traulich mit dem höchsten Wunsch vereinigt hat. (Endres).

4707. *Nun* — Jetzt. *aus jenen ewigen Gründen* — aus der Tiefe des Alls. 森羅万象の奥底から。(Arens). aus den seligen Gefilden der Ewigkeit, wo alle Wünsche erfüllt werden. (König). aus den unerforschlichen Tiefen des menschlichen Seelenlebens. (Witkowski). brechen = hervorbrechen. (Fischer).

4708. *Flammenübermaß* — Leidenschaft. (Witkowski). *betroffen* — erstaunt. (Fischer).

4709. *Des Lebens Fackel* — Die Fackel des Lebens. die Fackel der Lebensweisheit. (Witkowski). ここでゲーテは Prometheus の神話のことを考えていたのかも知れない。Prometheus は太陽の馬車の燃える車輪によって、自分の松明に火をつけたとする稿本がある。(Endres). 我々はただ生命の松明に火を点じようとしただけなのだが、堪えられないほど炎に巻き込まれる。この炎は愛でも憎しみでもなくて、感覚としては Schmerz, 与えられた体験としては Freude に外ならない根源現象なのである。こうして我々は朝霧の中に

保護を求めて、再び目を大地の方へ向ける (V. 4713f.). (Arens).

4710. *welch ein Feuer* (ist das)!

4711. *die* — 関係代名詞。先行詞は例えば *die Flammen* のような *Pl.* 名詞を補わねばならない。(Heffner). *Ist's* — *Ist es*. *es* は *die Flammen* を受ける。ここは = *Ist es Liebe? Ist es Haß?* *die Flammen, die glühend uns umwinden.* (Heffner). *Thomas* は韻律を考慮して *Ist's Lieb'?* *Ist's Haß?* *was glühend uns umwinden* とする。*Liebe* : *Haß*, *Schmerz* : *Freuden* の語順は交差配列 (*Chiasmus*) と言われる言葉のあやをもたらず。(Heffner).

4712. *mit et. wechseln.* 或物を取り替える。しかしこの場合は „wechsel zwischen zwei dingen zeigen.“ (Grimm). 苦痛と喜びが交互に。 *ungeheuer* — *außerordentlich, ungewöhnlich.* (Fischer). この行は前の行にかかる。ここには *Faust* の地霊体験の思い出が多少とも関わっている。(Endres).

4713. *nach et. blicken.*

4714. *Zu bergen* — (Um) zu (ver)bergen. *sich in et.³ bergen. in jugendlichsten Schleier* — *im Nebelschleier der Morgenfrühe.* 夜明けのHimmelsklarheitによって引き裂かれたNebelstreifの意。vgl. *Tal aus, Tal ein ist Nebelstreif ergossen.* (V. 4688). (Schöne). *jugendlich* — 早朝のさわやかな自然。Loeperは *morgendlich* で言い換えている。修飾語のない絶対的の最高級の使用 (*in jugendlichsten Schleier = in ihrem äußerst wohlthuenden Schleier*) は、多少不自然な感じを与える。豊富な類例がゲーテの晩年の作品に見出されるけれども。(Thomas).

4715. *So ... denn* — そう言うわけで。 *bleibe* — *die Sonne* に対する要求。 *mir im Rücken* — *in meinem Rücken.* 急いで太陽のあとを追う第一部の *Faust* とは逆。vgl. V. 1086f. : „*Ich eile fort, ihr ewiges Licht zu trinken, / Vor mir den Tag und hinter mir die Nacht.*“ (Trend.). *die Sonne* に対する要求の理由が以下に述べられていて、最後の格言 : „*Am farbigen Abglanz haben wir das Leben*“ に通じている。問題になっているのは „*das Leben*“ であって、認識の衝動の再発ではない、忘れられた情熱の思い出でもない。ゲーテの言葉を借りて言えば、人間や世界全体、自然全体、生命全体については、同一の尺度で測ることはできないという洞察が問題になっているのである。(Arens).

4716. *Felsenriff* — *Felskluft.* 岩の割れ目。(Arens). *durchbrausen* — *mit brausen durchdringen, stärker als durchrauschen, durchsausen. untr.* (Grimm). ここは *Der Wassersturz, der das Felsenriff durchbraust.* この節の偉大な自然の象徴を表現する基礎になっているのは、*Schaffhausen* 近郊の *Rheinfall* をゲーテが観察した時の経験である。ここでは言葉の使用に至るま

- で影響を及ぼしているように思われる。vgl. Tagebuch 18. 9. 1797. (Schöne). とりわけ1779年の秋の2度目のスイス旅行のとき、Lauterbrunnenの滝 Staubbach がゲーテに強い印象を与えて、彼の最も深淵な詩の一つ „Gesang der Geister über den Wassern“ を書ききっかけになった。(Endres).
4717. *ihn* — Der Wassersturz. an|schauen. 太陽に背を向けるのは — 今までは注意を払わなかった — 滝の上の虹に気付く前提に外ならない。虹はここでは完全な象徴になっている。直ちに Faust は „mit wachsenden Entzücken“ で滝を眺める。曾てこの滝に喩えながら、破壊的な運命として自分自身を見ていたということを、今はもう全く思い出さない。(V. 3349–59). (Arens).
4718. *Von Sturz zu Sturz* — Von Felsstufe zu Felsstufe. (Arens). Von einem Absturz zum andern. (Fischer). 変母音しない *Pl.* Sturz は altes Deutsch. (Fischer). SWb では Sturz の *Pl.* は (-e), Stürze になっている。vgl. V. 4658. 他に変母音しないのは V. 4867 „Napfen“, 7561 „Ballen“, 9623 „Haupten“. (Schmidt). wälzen — vom wasser : der strom wälzt seine fluten. (Grimm). しかし次行の *sich* が wälzt と ergießend に共通するという意見もある。(Schmidt, König, Arens). *er* — 前行の *Ihn.* tausend のあとに Komma のある版とない版がある。3 : 1 である版の方が多い。
4719. *Dann* — Und が普通。in tausend Dann abertausend Strömen⁴. *aber* — *adv.* wieder の意。(Grimm). *hundert* や *tausend* と結びついて意味を強めて、*Vielzahl* を表す。(GWb). *sich ergießen* — in etw einfließen od – münden. (GWb).
4720. *Schaum an Schäume* — spray upon spray. (Luke). *sausend* — sausen lassend. (König). つまり *tr.* で „Schaum an Schäume“ が補足語。„sending with a roar“ の意味で *tr.* として用いられている。(Thomas). この3行の意味は：„Immer aufs neue mit sich überstürzenden Fluten wälzt er sich hinab, indem er sich in tausend und abertausend Strömen ergießt und immer neue Schaumwolken sausend hoch in die Lüfte schleudert.“ (König).
4721. *wie herrlich (ist es).* *es* は後半から3行下まで。 *Sturm* — Sprühregen, den die Schäume des Wasserfalls verursachen. (Schröer). *ersprießen* — entsprießen. (Grimm). この分詞句は次行の *des ... Wechseldauer* にかかる。
4722. *des bunten Bogens Wechseldauer* — die Wechseldauer des bunten Regenbogens. *Wechseldauer* — (Goetheswort) = mit Wechsel verbundene Dauer. (Fischer). 虹を作る水滴は絶えず入れ替わるが、虹そのものは持続する。生のはかない個々の現象も移り変る。しかしそのなかにあつ

て持続するもの、ゲーテが „das Wahre“, „das Göttliche“と呼んでいるものは、深く観察する者に対しては啓示される。このように移ろい易いものは、持続するものの比喩になる。(Alt).

神学的には虹は洪水のあと、神と人との間に結ばれた新しい契約のしるしである。(1. Mose 9, 13). Faust にとっても虹は、神に対する関係が新たに取り決められねばならない新たな始まりである。vgl. V. 748 (Gaier). vgl. Goethes Gedichte : „Regen und Regenbogen“, „Regenbogen über den Hügeln“. (Schmidt).

4723. Bald ..., bald. *rein* — deutlich.

4724. *duftig* — *dunstig*. (GWb). *neblig*. (Fischer). もやのようにぼんやりと。*Schauer*⁴ — にわか雨。

4725. *Der* — 3行上の Bogen. *ab|spiegeln*. *Bestreben* — *nisus*, *studium*. 努力。(Grimm). Gaier によれば *Bestreben* は *Streben* より方向の多様性を表す。英訳では *endeavor*, *striving* の外に、*man's whole story* や *mortal coil and strife* (この世のわずらわしきや争い) など。

4726. *Ihm* — 前行の *Der*. (虹). *sinne nach* — *du* (Faust 自身) に対する命令法。虹についてよく思案せよ。 *nach|sinnen*. *und* — そしたら。*du* — Faust. *begreifst* — 次行が補足語。

4727. *Abglanz* — *metaphor* (bes im relig u ästhet Bereich) : *Wiederschein* eines 'höheren' Lichts als *Gleichnis*, *Symbol* ; von etwas Vollkommenem ausgehender *Glanz*. (GWb). *abgespiegelter od zurückgeworfener Glanz*, *Widerglanz*. (Fischer). *haben* — ここでは *besitzen* の意。(Henckmann). この Faust の長い独白 (V. 4679–4727) は、始まったときと同じく „das Leberñ への言及で終わる。(Heffner). 最後の独白の明るくてくせのない a 音の連続は、音響の象徴である軟らかく晴れやかな効果を及ぼしている : „Am farbigen Abglanz haben wir ... (May). *Abglanz* には影、映像、反照、反映、反射の輝きなどの訳があるが、反映を選びたい。

ゲーテは „Versuch einer Witterungslehre“ (1825) の中で次のように述べている : „Das Wahre, mit dem Göttlichen identisch, läßt sich niemals von uns direkt erkennen, wir schauen es nur im Abglanz, im Beispiel, Symbol, in einzelnen und verwandten Erscheinungen.“ (Trend.). 永遠なるもの、変化の中にあって持続するもの、典型的なもの、理想的なものは、我々の変化に富む人生を反映している。それらは太陽の *Abglanz* である虹のように、多彩な *Abglanz* であり、人生に唯一価値を与えるものである。第二部全体はこの言葉の実現に向けられている。vgl. V. 12104f. : „Alles Vergängliche ist nur ein Gleichnis.“ (Schröer). Faust は自分の努力を到達し得るものに限ることを学んだ。今や Faust は「大世界」の変化に富んだ多彩な人生の中へ入って行く。(König).

KAISERLICHE PFALZ • SAAL DES THRONES 皇帝の居城。玉座の広間 (V. 4728–5064)

Karl V. が Faust を出頭させている1587年の Volksbuch や、Maximilian I. の許に Faust を連れて行く der Christliche Meynende の話に忠実に、Faust を宮廷に送り込むことは、最初からゲーテの計画の中にあった。1824年12月16日 „Du u W“ のために口述した „Faust II“ の内容の構想 (Par. 63) では、Mephisto がどのように Faust を、Reichstag のために Augsburg に滞在している Maximilian の許に連れて行くかが語られている。皇帝や廷臣たちが旅行中に滞在する多くの住所の一つである Kaiserliche Pfalz は (Haupt- und Residenzstadt は存在しなかった)、これから始まる第一幕全体の出来事の舞台である。玉座は皇帝が権力を行使する心臓であり中心である。従って我々は観客としてトップレベルに居ることになる。(Arens).

皇帝は宰相や最高の高官たちの願いにより Thronrat を召集したのである。(V. 4769–71). Kanzler, Heermeister, Schatzmeister, Marschalk が語る。彼らに反対の立場なのが Kaiser, Mephisto (als Narr), Astrolog である。経験に富む男たちの意見が進められる代りに、万事 Mephisto の思い通りになる。新たに出てきた Mephisto は最初から彼ら全部を扱う術を心得ている。以前 „Auerbachs Keller“ の場で学生たちを扱ったように。

„Anmutige Gegend の場“ では、自然の力が妖精たちの抒情的な言葉のうちに表現されていて、それから Faust の独白の中で人間精神による世界の解釈が続くけれども、ここでは我々は政治や社会や慣習などの言葉を聞く。ゲーテは詩行の中に自分の批判を入れている。そして廷臣たちをそのありとあらゆる弱点ともども詩的な比喩の中に取り込んでいる。前の場では Lied 詩節の規則正しいリズムと Terzine が鳴り響いているけれども、ここでは変化に富むさりげない Faust 詩行、即ち Vierheber と Fünfheber で、大抵は対韻であるが、たまには交差韻である。特に Mephisto が話の中で特別な落ちを口にする場合は (z.B. V. 5061–64)。ゲーテの日記によれば、ゲーテはこの場を1827年10月1日に Eckermann に朗読して聞かせている。13日には Zelter にも。(Trunz).

Pfalz — aus *mlt.* palatium = fürstliche Wohnung, insbes. die des deutschen Königs od. Kaisers. (Fischer). *ahd.* pfalana, 特に *lat.* palatium (= Palast) から派生した語。フランク王国や中世ドイツで旅行中の Kaiser やその廷臣たちを受け入れた、全国に点在している住居のことで、堅固に守られていた。(Endres). 他に Burg, Hofburg, Palast などの注釈がある。*Kaiser* — 名前はない。皇帝一般が言われているので。(König). 歴史的に確定され

得る人物としてではなく、一般に破綻を示している封建国家の無能な元首として考えられている。(Erler). vgl. Gespräche mit Goethe, den 1. Oktober 1827 : „Ich habe in dem Kaiser, sagte er, einen Fürsten darzustellen gesucht, der alle möglichen Eigenschaften hat, sein Land zu verlieren, welches ihm denn auch später wirklich gelingt. Das Wohl des Reichs und seiner Untertanen macht ihm keine Sorge ; er denkt nur an sich und wie er sich von Tag zu Tag mit etwas Neuem amüsiere. Das Land ist ohne Recht und Gerechtigkeit, der Richter selber mitschuldig und auf der Seite Verbrecher, ... Die Staatskasse ist ohne Geld und ohne Hoffnung weiterer Zuflüsse ... “(Schröer).

Staatsrat — 皇帝の前に召集される年1回の帝国会議。一番身分の高い Staatsrat から一番低い Hofgesinde までの宮廷の全役人が、国家の状態についての皇帝の言葉を聞くために召集された。State Council. (Heffner). *des Kaisers* — 目的の2格。 *Trompeten* — 君主の登場や退出 (V. 5060) の際にトランペットを吹くのは、Shakespeare やドイツの古いドラマで行われていた習慣。(Witkowski). *Hofgesinde* — (niedere) Bedienstete bei Hofe. (GWb). vor|treten. auf et.⁴ gelangen. *Astrolog* — 占星術師。天文博士。18世紀まですべての諸侯の宮廷に於て必要とされていた賢者 (V. 4730)。同様に皇帝の左側に侍するのが „Narr“ — Hofnarr で、13世紀以来殆んどすべてのヨーロッパの宮廷で確固たる地位を占めていた。(Henckmann). zu seiner Rechten (steht) der Astrolog.

4728. *die Getreuen, Lieben* — 18世紀の官庁用語で、大臣や顧問官に対する領主たちの公式の呼び掛け。(Petsch). vgl. Adelung : „Lieber Getreuer, ist der gewöhnliche Titel, welchen Fürsten ihren Ministern und Räten in Kanzelleyschreiben geben.“ V. 4761で繰り返される。(Schmidt). これに対して領主たちは他の領主の大臣や顧問官に対しては、 „Lieber Besonderer“ と呼ぶ習わしであった。(Schröer).

4729. = Die sich aus der Nähe und Weite versammelt (haben).

4730. *Der Weise* — der Astrolog. (Endres). *mir zur Seite* — zu meiner Seite.

4731. 英訳では But why does my jester not appear? (MacNeice). But what has happened to my Fool? (Atkins) など。現在完了。Mephisto が道化を片付けたのである。ゲーテ自身1827年10月1日に Eckermann に語っているように : „Der Staatsrat will Sr. Majestät über alle diese Gebrechen Vorstellungen tun und ihre Abhülfe beraten ; allein der gnädigste Herr ist sehr ungeneigt

- ; solchen unangenehmen Dingen sein hohes Ohr zu leihen ; er möchte sich lieber amüsieren. Hier ist nun das wahre Element für Mephisto, der den bisherigen Narren schnell beseitigt und als neuer Narr und Ratgeber sogleich an der Seite des Kaisers ist.“ vgl. doch V. 6156. (Reclam). 皇帝は規則どおりなら自分の左側に居るはずの道化のことを尋ねて、挨拶の言葉を中断する。そのことで自分の性格を示している。(Arens).
4732. *Junker* — 宮廷に仕える (若い) 貴族. Hofjunker. (GWb). *deiner* — 最高の存在, gott, Christus, den heiligen geist に対しては du で話しかける。高位の人には現在では du で話しかけずに, eure majestät, hoheit を用いる。(Grimm). ここでは皇帝に対して du を用いている。vgl. V. 4878 : Dich und die Deinen !
4733. zusammen|stürzen.
4734. hinweg|tragen. *Fettgewicht* — schwer fatter Mensch, als Benenn. des Narren. でぶ。(Fischer).
4735. = (Ob er) tot oder trunken? weiß man nicht.
4736. Dreireim かしばしば登場する : V. 4736–37–40. 4765–66–67. 4855–60–61. 4865–68–72. (Schmidt).
4737. ein anderer (Narr). 英訳では Another fool pushed into his place. (Atkins). Another's pushing for his place. (MacNeice).
4738. *köstlich ... ausgeputzt* — prächtig gekleidet, ausgestattet. (GWb).
4739. = Doch (so) fratzenhaft, daß jeder stutzt. *fratzenhaft* — possenhafte. (Schröer). *stutzen* — beginnen aufzumerken, erstaunen. (Grimm). plötzlich stillstehen, scheu werden. (Fischer). 英訳では But so grotesque that everyone is leery. (Atkins). But so grotesque, it makes folks stare. (Bruford).
- 4740f. *ihm* — ein anderer (Narr). Mephisto. *kreuzweis* — 十字の形に。vor|halten. *Hellebarden* — 中世の斬ったり突いたりする武器。2 m ほどの長さの柄には, 鋭い穂先, 斧, 逆鉤 (Widerhaken) などがついていた。今日でもヴァチカンのスイス衛兵が使用している。(Gaier).
4742. Weimar では上演の際には, Mephisto はこの Hellebarden を飛び越えた。(Loeper).
4744. 道化は色々な話や思いつきで皇帝を楽しませる。しかし何でも許されている道化の自由の特権の下で, 廷臣たちは苦しまねばならない。vgl. V. 4757 : „Ein neuer Narr — Zu neuer Pein.“ 言わば道化は „Auerbachs Keller“ に於ける Mephisto の蚤の歌の蚤の役割なのである。(Arens).
4745. Was (ist) immerfort.

4746. Was (ist) hart.

4747. *du* — Kaiser. ここは = Wen brauchst du nicht herbeizurufen? Der Narr ist alleweil schon da. しかし今日の意味では Man darf den Teufel nicht einmal mit Namen nennen, sonst ist er sofort da! (Arens).

4748. hör(e)t. 英訳では Whose name do all delight to hear? (Atkins).
Whose name brings joy to every heart? (MacNeice).

4749. sich jm. nahen. *deines Thrones Stufen* — den Stufen deines Thrones. 玉座のきざはし。

4750. 現在完了。最後の2行は疑いもなく新旧の Hofnarr を意味する。しかし唯一 Mephisto だけが知っている Teufel と Narr の一致から出発すると、肯定的な疑問は Narr に、否定的な疑問は Teufel に関係があるということが分かる。この原則は最後まで保持されている。従って V. 4749は Teufel を, 4750は Narr を意味する。(Arens).

4743–50. Mephisto は V. 1335ff. のように、その矛盾に満ちた話によって興味を引こうとする。答えは Narr.(Petsch). 相容れないように見える対立をまとめる、これらの質問の答えは Narr である。(Trend.). その他 Hofnarr の外に Frage によっては、Teufel, Narrheit, Geist などの見解もあるが、一貫して Narr とする見解がほぼ3分の2を占める。

4751. *spare* — du (Mephisto) に対する命令法。

4752. = Your riddles here are out of place. (Atkins).

4753. *das* — sich mit Rätseln zu befassen. (Düntzer). *dieser Herrn* — dieser Herren = des Kanzlers, des Schatzmeisters, des Heermeisters und des Marschalks. (Schröer).

4754. *Da löse du!* — Im Staatsrat löse die schwierigen Fragen, die diese Herren nicht lösen können. (Schröer). *löse* — du (Narr = Mephisto) に対する命令法。この意味は「私は大臣たちから提出された謎はもう十分持っている。私に必要なのは謎の解答者だ」ということ。(Thomas). *das* — Narr の解答。

4755. *ging ... weit ins Weite* — ging ins Jenseits. (König). ist gestorben. (Endres). weit = ab. (Loeper). つまり ab|gehen. *ins Weite* — ins Ferne. (Fischer).

4756. *Nimm, komm* — du (Narr) に対する命令法。

4756+ *hinauf|steigen*.

vor 4757. *Menge* — Hofgesinde aller Art. vgl. Regiebemerkung zu Beginn der Szene. (Endres).

4757–60. Gedankenstrich は個々の話を分けているが、そのうちの二つずつが、

全体としてまとまった話になっている。(Düntzer). „Mummenschanz の場“ に於ても群衆のつぶやきや叫びは, „Weiberklatsch“ (V. 5640-45) を別として Gedankenstrich によって分けられている。vgl. V. 5484-93, 5715-24, 5748-56. (Arens).

4757. 英訳では A new foul! — Now new troubles begin! (Luke).

4758. *Wo ... her* — Woher. ein|kommen. V. 4741の衛兵の Hellebarden が, 彼を締め出すのに失敗した事実への言及。(Heffner).

4759. Der alte (Narr) fiel. Der = Der alte. *vertun* — aus mit jm. sein. (Paul). verloren gehen. (Fischer). *Der hat vertan* — Es ist damit vorbei. (SWb). Mit dem ist es zu Ende. (Düntzer). 現在完了。英訳では His time was up! (Atkins).

4760. *Es* — Der alte. *Faß* — 前の道化の „das Fettgewicht“ (V. 4734) に対して, Mephisto は Holzspan (V. 5643f.) のように痩せている。(Gaier).

4761. *Und also* — それでは。

4762. (Seid) willkommen.

4763. *mit* — unter. (Fischer).

4764. *Da droben* — in den Sternen. (Schröer). 天文博士は皇帝の Karneval の気分に合わせて予言したのである。(Trend.). *droben* — < dar oben = da oben. vgl. V. 1009. (Fischer). *uns* — unser. 我々の。

4765. *sagt* — ihr に対する命令法。 *warum* — 4行下で繰り返す。軽薄な皇帝はこのカーニヴァルの時期に, 国家の問題で苦しまねばならないことを不思議に思う。そこでどうしても必要なわけを廷臣たちに尋ねる。(Endres).

4766. *Wo* — 関係副詞。先行詞は Tagen. 2行下までかかる。 *sich eines Dinges entschlagen*. 或物を免れる。 *entschlagen* は *inf.* で2行下の *wollten* にかかる。(Thomas).

4767. *Schönbärte* — verderbt aus schemebart, schembart, eigentlich ‘bärtige maske’. später im allgemeinen sinne ‘maske’, wie sie besonders beim fastnachtsmummenschanz üblich ist. (Grimm). *mummenschänzlich* — *adv.* = beim Mummenschanze. (Fischer). maskiert. (Schröer). *Mummenschanz* — Wurf im Glücksspiel od. Glücksspiel selbst. (サイコロを振ること。サイコロ遊び)。カーニバルの時期に仮面をつけた人々によって行われたので (16世紀末以来), Maskerade, 即ち, 仮面をつけた人々の楽しい催しと言われた。(Fischer).

Mummenschanz は *f.* und *m.* mummen = ein glücksspiel mit würfel. (Grimm). *Schanz(e)* — *frz.* chance, *ital.* cadenza, *lat.* cadentia より。本来の意味は: „fall der würfel, der glück oder unglück bringt, einsatz,

- das spiel selbst.“ 現在では „sein leben in die schanze schlagen“ という慣用句でのみ用いられる。(Grimm). この行の意味は Wir tragen Masken und vermummende Kleidung. (Reclam).
4768. *Heitres* — „Mummenschanz“ に於て 8 回, „Classische Walpurgisnacht“ では 12 回繰り返されている。晩年のゲーテはしばしば次のような広い意味で用いている: schmerzlos, frei von Selbstsucht, vergeistigt, zu ruhiger Klarheit stimmend. (Henckmann). *Heitres nur* — nur *Heitres*.
4769. *sollten* — 接続法 II. 反語的用法。
4770. *meint* — sagt. *es geht an* — それは出来る。nicht anders が入ると, それは変えられない。es は前行のこと。ginge — 接続法 II. 間接話法。英訳では But since you think there's no alternative. (Atkins).
4771. *Geschehn ist's* — 事は行われた, 即ち, 枢密院の会議は招集された。現在完了。so sei's getan — それでは仕事をさっさとすませ。sei — 接続法 I. es に対する要求。(Thomas). Das einmal Geschehene auf die Berufung der Versammlung zu beziehen, das zu Tuende auf die Beratung mit derselben. (Loeper). 英訳では I gave consent : now give me your reply. (Luke).
4772. *Kanzler* — 宰相。第四幕の Erzbischof-Erzkanzler と同一人物で, 古いドイツ帝国憲法によれば Mainz の大僧正。利己的で勿体ぶった高位聖職者の典型。(Witkowski).
4773. *er* — 前半の Kaiser.
4774. vermögen, et. zu tun. *sie* — 2 行上の Die höchste Tugend.
4775. *Gerechtigkeit!* — (Es ist) Gerechtigkeit! 英訳は Its name is Justice! (Atkins). *Was* — 次行の Was 文と共に前の Gerechtigkeit の内容を示す。
4776. *schwer entbehren* — hard to live without. (Atkins).
4777. *Es* — 後半部の zu 不定詞句。es は上 2 行の Was 文。ihm — V. 4773 の er. es liegt an ihm. それは彼次第だ。
4778. *Was* — Zu was, Wozu. 人間の精神に対して分別が何の役に立つのか。Verstand は次行の Güte, Willigkeit と同じく主語。
4779. *Willigkeit* — Willigkeit zur Tat. 行為への熱意, 気乗り。(Schröer). der Hand は 3 格。
- 4780f. *durchaus* — nach allen Richtungen, überall. (Fischer). es wütet. es は形式上の主語。Übel sich Übeln überbrütet — ein Übel brütet ein neues aus und überbietet das frühere. (Trend.). Ein Übel brütet das andere, immer noch schlimmere aus. (Alt). sich überbrüten = sich eins aus dem andern in steigend verderblichen Übermaß entwickeln. (Fischer).

- 悪事が一層はなはだしい悪事を生んでいるこの有様では。(手塚)。
- 4782f. *Wer schaut hinab ... , ihm scheint's ein schwerer Traum* — *Wer ... hinabschaut, dem scheint es ein wüster Traum.* (Endres). *Wer* — *Wer auch immer.* (Reclam). *hinab|schauen.* *von diesem hohen Raum* — *from this lofty vantage point.* (Atkins). *ein schwerer Traum* — *nightmare.* 悪夢。(Thomas)。
4784. *Wo* — 前行の *das weite Reich.* 2 行下までかかる。 *Wo Mißgestalt in Mißgestalten schaltet* — *Wo Widerliches sich nach Willkür in widerlichen Formen ergeht.* (Fischer). *Die allgemeine Unordnung herrscht in tausend Formen.* (Arens). *Mißgestalt* — *unschöne Gestalt, unschön gestaltetes Geschöpf.* (Fischer). 出来損い。異形のもの。不都合なこと。 *schalten* — *gebieten, herrschen.* (Heyse). 病んだ帝国の実態の醜悪さと関係がある。(Schöne)。英訳では： „In which Deformity holds sway among deformities.“ (Atkins)。 „Where the misshapen rules in misshapeness.“ (MacNeice)。
4785. *das Ungesetz* — *die Gesetzlosigkeit.* (König)。 *überwalten* — *untr. intr. herrschaft, macht, gewalt haben* (Grimm)。 *überwältigen.* (Buchwald)。 *über* にアクセントを置く。(Reclam)。ここは = *Wo das Unrecht Gesetz wird.* (Schröer)。
4786. *Irrtum* — ここでは道徳的な意味の *Verirrung.* (Schröer)。この *eine Welt des Irrtums* は上 2 行と共に、Luther によって引き起された信仰の分裂に恐らく関係があるだろう。(Arens)。
4787. *Der ... , der* — *Der eine ... , der andere.* *Herde* — *von gesellig lebenden Nutz-, Zuchtieren, zahmen Vieh.* (GWb)。 *sich*³ = *für sich.* *der* のあとに (*raubt sich*) を補う。以下 V. 4806 まで具体的な事例が続く。
4788. = (Und) *Kelch, Kreuz und ...*
4789. *Berühmt sich ...* — V. 4787 の *Der ... , der ...* の文を受ける指示代名詞が省略されている。(菊池)。 *sich eines Dinges berühen* = *sich eines Dinges rühmen.* (Fischer)。 *dessen* — 上 2 行の内容を指す指示代名詞 *das* の 2 格目的語。 *manche Jahre* — 4 格の副詞。
4790. 英訳は *Never fearing the lash, safe in his skin.* (Greenberg)。
4791. *Halle* — 英訳では *the hall, the courthouse* など。
4792. *prunken* — *nur tadelnd : durch äußeren Glanz, Schmuck die Augen auf sich zu ziehen suchen u. den innern Unwerth verdecken.* (Heyse)。 *Pfuhl* — *Polsterstuhl.* (König)。
- 4793f. *Schwall* — *angeschwollene Masse, sich wellenartig bewegend*

- Menge. (Fischer). *Des Aufruhrs wachsendes Gewühl* — Wachsendes Gewühl des Aufruhrs. *Aufuhr* — polit Wirrnis, Auseinandersetzung. (GWb). *Gewühl* — vom Gedränge einer Menschenmenge. 押し合いへし合い。(GWb).
4795. = Derjenige auf Schande und Frevel pochen darf. auf. et. pochen = trotzig od hochmütig und mit übertriebenem selbstgefühl sich worauf stützen, worauf bestehen, es schau tragend äuszern. (Grimm). ころは = Der kann schändlich, frevlerisch handeln und das offen zur Schau tragen. (Schöne).
4796. *Der* — 前行の *Der* (jenige) を受ける。 *Mitschuldigste* — 最も罪深い共犯者。ぐる。(Thomas). sich auf et. stützen. 頼りにする。
4797. *du* — Kaiser. *ausgesprochen* — gegen Unschuldige. (Düntzer).
4798. *Wo* — Wenn. *Schuldig!* と判決を下す裁判官の前で、弁護してくれる者が自分以外にはないとき。(Schöne).
4799. = So ist alles in Begriff, in Stücke zu zerfallen. (Schröer). *will* — 今にも ... しそうである。 *sich zerstückeln* — sich in einzelne Teile auflösen. (Fischer). *alle Welt* — society. (Heffner).
4800. Vernichtigen のあとに *will sich* を補う。(Thomas). *vernichtigen* — unwirksam machen. (Fischer). nichtig から派生した語で, „to make futile“ (無駄にする, 無価値にする) の意。vernichten と同じ意味ではない。(Thomas). *was sich gebührt* — was in Ordnung ist. (Schröer). das Gerechte. (Henckmann). 正しいこと。主語。 *sich gebühren* — sich gehören ; dem Sittenkodex, den Anstandsregeln, der Etikette, auch einer relig. Pflicht entsprechen. (GWb). この2行は : „Thus all the world is going to pieces and the right (was sich gebührt) is becoming an empty form.“ (Thomas).
- 4801f. *soll* — 疑問の意を強める。 *der Sinn* — the sense of justice. 正義感。vgl. V. 4775. (Heffner). *Der* — 関係代名詞。先行詞は *der Sinn*. *Der einzig* — それだけが。
4803. *ein wohlgesinnter Mann* — Selbst ein (ursprünglich) wohlgesinnter Mann (der Richter). (Alt).
4804. *Neigt sich* — 本来は前行の *Zuletzt* のあとに置くべきもの。(Düntzer). sich jm. neigen. 人に心が傾く。
4806. sich zu et. gesellen.
- 4807f. *Ich malte schwarz* — ein maler malt schwarz, wenn er viel schatten gibt. ここでは bildlich. (Grimm). et.⁴ et.³ anderem vor|ziehen. *Zög'* — 接続法 II. 仮定。 *dichtern* — 比較級。この比較級の意味は以下の通り : 私

は黒い絵を画いた。だがまだ事実そのままに黒くは画かなかった。私は幾らか事実を隠した。しかしもっと厚いヴェールをその上にかけていたのだが。(Thomas). Flor — Hülle, Schleier.(Fischer). *Pause* — 宰相は効果的な間を取る。それから脅迫するような要求を持ち出す。皇帝は決然と振舞わねばならない。それをしない皇帝の結末は第四幕で示される。(Arens).

4809. sein + zu 不定詞。

4810. *alle* — alle Menschen. *schädigen* — jemandem schaden thun. (Grimm).

4811. *Geht selbst die Majestät zu Raub* — Geht selbst die Ehrfurcht vor der Kaiserwürde verloren. (König). zu Raub gehen = einer, etwas wird zum Raube. 獲物になる。奪われる。聖書の表現。vgl. Jesaja 42, 22 : sie sind zum Raube geworden. (Grimm). 英訳は Then Majesty itself becomes a victim. (Atkins). Even the Crown is up for loot. (MacNeice). 国内で法の権威が支配していないところでは、結局王冠の権威さえも失われざるを得ない。宰相の結末の言葉は狡猾である。なぜなら王冠を失うという危険のみが、快樂を求める皇帝を何らかの精力的な改革へと動かすことが出来るからである。(Endres).